

# 「漢文」直前はこれだけ！

## ◎返読文字

- ・存在・状態
- 無←人無遠慮、必有近憂。(人遠き慮無ければ必ず近き憂ひあり)

## ・助動詞

### ①否定

不・弗・非←春眠不覚曉。(春眠曉を覚えず)

### ②受身・使役

被・見・為(る・らる)←信而見疑、忠而被謗。(信にして疑はれ、忠にして謗らる)



動詞BのAする所と為る。

A: 動詞の連体形

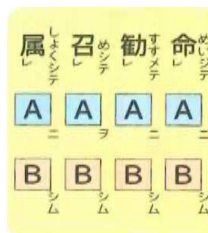
使・令・遣・教(しム)←令騎皆下馬歩行。(騎をして皆馬より下り歩行せしむ。)



A: 使役の対象

B: 動詞の未然形

C: 目的語



A: 使役の対象

B: 動詞の未然形

### ③比況

如・若←人生如朝霧。(人生は朝霧のごとし)  
傍若無人。(傍らに人無きのごとし)

## ◎再読文字

将・且 まさニ〜んとす。今にも〜しようとする。

〜するつもりだ。

当 まさニ〜ベシ。当然〜しなければならぬ。すべきだ。

応 まさニ〜ベシ。きつと〜だろう。(推量)

須 すべからく〜ベシ。せひ〜する必要がある。

宜 よろしく〜ベシ。〜するのが適当だ。(適当)

猶 なほ〜(の・が)〜とシ。まるで〜のようだ。

蓋 なんゾ〜ザル。どうして〜しないのか。||「何不」

部分否定と全部否定

全部否定：副詞＋否定詞＋動詞  
 部分否定：否定詞＋副詞＋動詞

不<sub>ニ</sub>常<sub>ニハ</sub> □<sub>一</sub>

例 不<sub>ニ</sub>常<sub>ニハ</sub> 得<sub>レ</sub>油<sub>ヲ</sub>。  
 書<sub>ニハ</sub>常<sub>ニハ</sub>には油を得ず。

訳 いつも油を入手できるとは限らない。

常<sub>ニ</sub> 不<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>油<sub>ヲ</sub>。  
 書<sub>ニハ</sub>常<sub>ニハ</sub>に油を得ず。

訳 いつも油を入手できない。

不<sub>ニ</sub>復<sub>ニハ</sub> □<sub>一</sub>

例 不<sub>ニ</sub>復<sub>ニハ</sub> 与<sub>レ</sub>言<sub>ハ</sub>。  
 書<sub>ニハ</sub>復<sub>ニハ</sub>た与<sub>ニハ</sub>に言はず。

訳 二度とともに語り合うことはなかった。

復<sub>ニ</sub> 不<sub>レ</sub>与<sub>レ</sub>言<sub>ハ</sub>。  
 書<sub>ニハ</sub>復<sub>ニハ</sub>た与<sub>ニハ</sub>に言はず。

訳 またしても一緒に語り合わない。

不<sub>ニ</sub>必<sub>ニハ</sub> □<sub>一</sub>

例 師<sub>ハ</sub> 不<sub>ニ</sub>必<sub>ニハ</sub> 賢<sub>ニ</sub>於<sub>ニ</sub>弟<sub>ニ</sub>子<sub>ニ</sub>。  
 書<sub>ニハ</sub>師<sub>ハ</sub>は必ずしも弟子より賢ならず。

訳 師は必ずしも弟子よりまさっているとはかぎらない。

必<sub>ニ</sub> 不<sub>レ</sub>賢<sub>ニ</sub>於<sub>ニ</sub>弟<sub>ニ</sub>子<sub>ニ</sub>。

書 (師は) 必ず弟子より賢ならず。

訳 (師は) 必ず弟子より劣っている。

不<sub>二</sub>俱<sub>一</sub> (とも二ハ) □

例 兩<sub>二</sub>虎<sub>一</sub> 共<sub>二</sub>鬪<sub>一</sub>、其<sub>レ</sub>勢<sub>ヒ</sub> 不<sub>二</sub>俱<sub>一</sub> 生<sub>二</sub>。キ

書 兩虎ともに鬪はば、其の勢ひ俱には生きず。

訳 二頭の虎が鬪えば、その勢いからして二頭とも生き残る  
ということはない。

俱<sub>二</sub>不<sub>一</sub>

生<sub>二</sub>。キ

書 俱に生きず。

訳 二頭とも死んでしまう。

不可能

不<sub>二</sub>可<sub>一</sub>  
不<sub>二</sub>能<sub>一</sub>  
不<sub>二</sub>得<sub>一</sub>  
不<sub>二</sub>敢<sub>一</sub>

読 べからず

訳 できない (一般)

読 能はず

訳 できない (能力)

読 得ず

訳 できない (機会)

読 敢へてず

訳 できない (感情)

疑問・反語

①「だれが？」 who?

孰<sub>レ</sub>誰<sub>カ</sub> 疑 (連体形) (や)  
反 (未然形) (ん) (や)

②「どのが？」 which?

孰<sub>レ</sub>奚<sub>ト</sub>何<sub>ト</sub> 疑 (連体形) (や)  
反 (未然形) (ん) (や)

③「なにが、なにを、なにの」 what?

何<sub>レ</sub>胡<sub>ト</sub>奚<sub>ト</sub>曷<sub>ト</sub> 疑 (なにが)  
何<sub>レ</sub>奚<sub>ト</sub>なにを (疑 (なにを))  
何<sub>レ</sub>なにの (疑 (なにの))  
疑 (連体形) (や)  
反 (未然形) (ん) (や)

④「なぜ」 why?

何<sub>レ</sub>胡<sub>ト</sub>奚<sub>ト</sub>曷<sub>ト</sub> 疑 (連体形) (や)  
反 (未然形) (ん) (や)

安<sub>レ</sub>焉<sub>レ</sub> 疑 (連体形) (や)  
反 (未然形) (ん) (や)

⑤「どこ」 where?

安<sub>レ</sub>焉<sub>レ</sub> 疑 (連体形) (や)  
反 (未然形) (ん) (や)

⑥「いつ」 when?

何<sub>レ</sub>時<sub>ト</sub> 疑 (連体形) (や)  
何<sub>レ</sub>日<sub>ト</sub>

①「Howのまじりっ」how?

何如 いかん

(状態・程度を問う)

如何 いかんせう

(手段・方法を問う)

奈何 いかんせう

【類】共通：「いかんせん」と読む。



紛らわしい反語

(1) 豈 いかに

反語 豈に—んや

(どうして~だろうか、いや—ない)

例 豈 いかに

遠 とほ 千里 せんり 哉。

【書】豈に千里を遠しとせんや。

【訳】どうして千里の道のりを遠いと思うだろうか。(いや遠くと思わない。)

豈 いかに

不 ふ □ 詠嘆 豈に—ずや

(なんと~ではないか)

※「豈に…ぞひんや」「ではないので注意。

例 豈 いかに

不 ふ 悲 しみ 哉。

【書】豈に悲しからずや。

【訳】なんと悲しいことではないか。

不 ふ 亦 また

—乎

反語 亦た—ずや

(なんと—ないことがあるうか)

例 不 ふ

亦 また 樂 たのしみ 乎。

【書】亦た樂しからずや。

【訳】何と樂しんことをあまらうか。(何と樂こらうか。)



字(な) 遊(あそ)ぶ 中(あ)つ 諫(いさ)む 所謂(いわゆる) 遠(とほ)慮(りょ) 海(うみ)内(ない) 客(かく) 科(か)学(がく) 家(か)書(しょ) 寡(か)人(じん) 千(せん)戈(が) 鬼(き) 氣(き)絶(たつ)

男子が成人した時に本名以外につける名。  
 ※諱…本名。  
 諱…死後、行跡によってつける名。  
 号…居住地などに因んでつける名。  
 旅行する。 ※遊子…旅人。  
 命中する。あたる。  
 目下の者が目上の者に忠告する。  
 一般に言われている。俗に。  
 将来の計画。  
 国内。天下。  
 族人。 ※会話文中で、貴君・あなたの意。  
 高級官吏の採用試験制度。  
 家族からの手紙。  
 王や諸侯の自称で謙遜した呼称。  
 ※朕…王や諸侯の自称。  
 戦争。  
 人間の靈魂。たましい。  
 息をひきとること。

堯(ぎょう)舜(じゆん) 君(きみ)子(し) 傾(けい)城(じやう) 蓋(たけ)し 光(ひかり)陰(いん) 哭(な)く 於(お)こは 是(こゝ)に 故(こゝ)に 宰(さい)相(さう) 左(さ)右(ぎゆう) 子(し) 師(し) 弒(ころ)す 士(し)大夫(たいふ)

中国古代の伝説的な聖王たち。  
 ↑桀(じやく)・紂(ちゆう)…夏と殷の時代の暴君たち。  
 立派な人物・人格者。 ↓小人。  
 美女。  
 おそろく…だろう。  
 時間。歲月。  
 大声で泣く。  
 そこで。  
 こういうわけだから。  
 昔からの親しい友人。  
 首相。  
 君主の左右にいる側近。  
 (し)あなた。貴君。先生。  
 (こ)子じとも。  
 軍隊。音楽家・楽器奏者。  
 目下の者が目上の者を殺す。  
 ↓誅(ちゆう)す…目上の者が目下の者を殺す。  
 古代中国の支配者階級。  
 ※大夫…諸侯を補佐する貴族階級。  
 士…太夫に仕える人(戦国時代には登用の

社(しゃ)稷(しやく) 周(しゅう)公(こう) 賢(けん)子(し) 卒(しやく)す 妾(せつ) 城(じやう) 丈(じやう)夫(ふ) 諸(しよ)侯(こう) 臣(しん) 人(じん)間(かん) 粟(もく) 夫(ふ) (其) 多(た)少(せう) 馳(ち)走(そう) 事(こと)ふ 具(ぐ)に

ために諸国を渡り歩く人も「士」と呼ぶようになった。  
 国家。  
 孔子が理想の為政者とした人物。  
 周王朝初代武王の弟。  
 子ども。未熟者。  
 貴人が死ぬこと。  
 ※崩(ほう)す…天子が死ぬこと。  
 女性の自称で謙遜した呼称。  
 まち。城壁。  
 立派な男子⇨大丈夫。  
 封建制度下で、各国を支配する領主たち。  
 臣下の者の自称で謙遜した呼称。  
 人間社会。俗世間。  
 穀物。俸禄。  
 もしも。仮に。  
 どれくらいか。多い。  
 馬に乗って速く走ること。  
 目上に人に仕える。  
 くわしく。

私(ひ)に 匹(びつ)夫(ふ) 百(ひゃく)姓(せい) 廟(びやう) 賦(ふ) 夫(ふ)子(し) 不(ふ)肖(せう) 兵(へい) 封(ほう) 宜(い)なり 固(こ)より 説(せつ)し 少(せう)し

その人の性格、気質。  
 こつそり。  
 身分の低い、つまらない人間のこと。  
 人民。庶民。 ※布衣…庶民。  
 祖先をまつた社、墓。  
 税金。  
 先生。あなた。  
 親に似ずできの悪い息子。  
 (謙遜して言つことも多い。)  
 兵器。武器。  
 領地を与えて支配をまかせること。  
 もっともだ。当然だ。  
 いうまでもなく。  
 うれしい。  
 若い。  
 (※重要語は現代仮名遣い順に掲載。)